

イザヤ 39:1～8

本日開かれた聖書箇所は、旧約の時代、南ユダ王国のヒゼキヤという王について記されています。彼は死に至る病にかかっていた時、神に向かって必死に祈り、その結果、彼の寿命は 15 年伸びたという事が 38 章に記されています。ヒゼキヤは喜んで神に感謝と賛美を捧げましたが、その後、愚かなことをして神の裁きを招いてしまったのです。しかし、彼は最後に 8 節に記されているように、イザヤが語る預言の言葉に対して、「あなたが告げる主の言葉はありがたいものです。」と告白し、再び神に立ち返り、激動の生涯を信仰によって全うしました。本日は、「あなたが告げる主の言葉はありがたいものです。」という言葉に注目したいと思います。

神を忘れたヒゼキヤ王

1-4 節には、ヒゼキヤの失敗が記されています。「そのころ」とは、ヒゼキヤが死に至る病から奇跡的に癒された時のことを指しています。バビロン(ユダ王国にとっては敵国)の王が使者を遣わし、ヒゼキヤに見舞いの手紙と贈り物を届けました。ヒゼキヤは数々の贈り物まで贈ってくれたことに感謝して、自国の宝庫と、銀、金、香料、高価な油、一切の武器庫、そして彼の宝物倉にある全ての物を彼らに見せてしまったのです。国家の秘密の物までも全て公開してしまったのです。ヒゼキヤが彼らに見せなかったものは一つもありませんでした。その後、このことが原因となり、やがて南ユダ王国はこのバビロンによって完全に滅ぼされることになってしまうわけです。ヒゼキヤは 15 年も寿命を延ばしてもらいましたが、取り返しのつかない過ちを犯してしまったのです。この箇所の並行記事がⅡ歴代誌 32 章 24-25 節にあります。彼の過ちとは、彼の心が高ぶったことです。彼は自分の富と力を誇りたかったのです。

彼はアッシリヤの王や将軍からの脅迫状が届いても、神の宮に行きそれを広げ、神に祈りました。病気で死にかかった時も、ただ神だけを見上げて、大泣きして祈りました。しかし、そうした危機から脱するとあたかも自分の力で乗り越えたと思い込んで高ぶってしまったのです。今までは神だけに頼り、祈ってきた彼の心に隙間が生じたのです。愚かと言えば愚かですが、私たちにも往々にして、そのような傾向があるのではないのでしょうか。病気が癒やされたり、試練の危機から乗り越えると、神の恵みに感謝し、神の御業について証しするよりも、知らず知らずの内に自分が前に出て、自分の努力や力を誇示してしまうような事があるのではないかと思います。ですので、本当の意味で危険なのは、困難に直面している時よりも、それを乗り越えた後の人の賞賛の声や、こうした陣中見舞いの品々が届けられて、心ウキウキするような時であることを心に覚えたいです。神学生時代に聞いた言葉で今でも印象に残っているのは、「人の賞賛の声は、同時に悪魔の囁きだ」と。

神の裁き

そのようなヒゼキヤ王の高慢に対する神の裁きが 5-7 節まで記されています。それは、この時から 115 年後の B.C.586 年に起こるバビロン捕囚の預言です。バビロンの王ネブカデネザルがエルサレムを陥落させ、捕虜として連行するだけでなく、ヒゼキヤがバビロンの使者たちに見せた全ての財産が、バビロンの人々によって略奪されます。ヒゼキヤ王の息子たちは屈辱的な目に遭いました。ユダの統治者たちは、警戒していたアッシリヤによってではなく、バビロンの攻撃によって滅んでしまうことになるのです。その原因はヒゼキヤ王が神ではないバビロンに拠り頼み、自分の栄光を求め滅んでしまうことになったのです。称賛の甘い蜜が驕りとなった結果です。

人を通しての悔い改め

そのように有頂天になったヒゼキヤ王の生涯は、8 節において悔い改めて立ち上がったことがわかります。「ヒゼキヤはイザヤ『あなたが告げてくれた主のことばはありがたい。』彼は、自分が生きている間は、平和で安全だろう、と思ったからである。」ヒゼキヤ王はここでイザヤに、「あなたが告げてくれた主のことばはありがたいものです」と告白したのです。

Ⅱ 歴代誌 32:26 において、神の裁きを招くようになったのは、自分が原因であること、自分が高ぶったからだということを知り、悔い改めて遜ったので、彼が生きている間には起こらないことを悟ったと記されています。同じく 33 節では、ヒゼキヤの最期について記しています。ヒゼキヤが死んだ時、ユダのすべての人々とエルサレムの住民は、彼に栄光を与え、ヒゼキヤは栄光のうちに死ぬことが許されたとあります。

ヒゼキヤ王でなくとも私たちも過ちに陥ったり、神から離れる時があります。しかし、実はそれ事態が大きな問題ではなく、その後、どのように立ち返るかということが重要なことだといえると思います。神は、私たちがもう一度信仰に立つことができるようにチャンスを与えてくださっています。神は私たちに対して、なんとしてもつまづかないで欲しい、神から引き離されないで欲しい。最後まで信仰を全うして命にあずかって欲しい。最終的に神の国における完全な救いにあずかって欲しい。そのような願いがヒゼキヤ王を通して現わされていると思います。それは、預言者イザヤを通して、神が働いてくださったということに繋がると思います。彼は、イザヤの言葉を聞いて素直に「あなたが告げてくれた主のことばはありがたいものです」と告白できたのです。信仰は一人では守ることができない弱い私たちです。ですから、神はその助け手を与えてくださっているといえます。

ダビデ王はバトシェバとの姦淫の罪を犯しましたが、預言者ナタンの言葉によって素直に心を開き、悔い改めて神に立ち返りました。ダビデからも神は立ち返る為に人を通して悔い改めへと導かれることが分かります。信仰の道は紆余曲折ではありますが、助け手が与えられて神に立ち返ることができ、何とか全うできるのではないのでしょうか。私たちの周りには、教会の信仰の友が与えられている幸いを思います。「あなたが告げてくれた主のことばはありがたいものです」といえる者でありたいし、また、言うことができる者でありたいと願うものです。